

# 一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略

## 資料編

# 一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略 資料編

## 【目次】

- 1 「一関市人口ビジョン」「一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略」  
策定までの経過 47
- 2 「一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議」における主な意見 49
- 3 「一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議」委員名簿 …… 55
- 4 「一関市まち・ひと・しごとを語る会」における主な意見・提言 56
- 5 「一関市まち・ひと・しごとを語る会」市民参加者名簿 …… 62
- 6 「一関市人口ビジョン」の策定に係るアンケート調査結果 …… 63
  - (1) 結婚・出産・子育てに関する市民アンケート調査
  - (2) 転入に関するアンケート調査
  - (3) 転出に関するアンケート調査

## 「一関市人口ビジョン」「一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定までの経過

月 日	項 目	備 考
平成 27 年 2 月 18 日	一関市まち・ひと・しごと創生本部設置	創生本部、人口ビジョン策定部会、総合戦略策定部会を設置
3 月 10 日	第 1 回 一関市まち・ひと・しごと創生本部会議	以下について協議 ・一関市まち・ひと・しごと創生本部設置について ・国の総合戦略について ・策定にあたっての基本的事項について ・先行事業について
4 月 27 日	一関市まち・ひと・しごと創生本部 第 1 回人口ビジョン策定部会及び総合戦略策定部会	以下について協議 ・一関市人口ビジョン及び一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針について ・(仮称)一関市まち・ひと・しごと創生市民懇話会の開催について ・地方創生先行型交付金の上乘せ交付について
5 月 30 日	一関市まち・ひと・しごとを語る会	・「まち・ひと・しごと」に関する視点から、テーマごとに意見をいただく ・女性を中心とした市民 25 人参加 (両日とも)
6 月 6 日		
6 月 20 日	一関市のまち・ひと・しごとを考える 高校生によるワークショップ	・高校生の視点で、まちづくりについて話し合ってもらう ・市内高校生 43 人参加
6 月 24 日	第 1 回 一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議	以下について協議 ・座長及び副座長の互選について ・まち・ひと・しごと創生法及び国の長期ビジョン・総合戦略の全体像について ・一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針について ・会議の全体スケジュールについて ・当市の人口の現状と将来推計について
6 月 29 日	一関市まち・ひと・しごと創生本部 第 2 回人口ビジョン策定部会及び総合戦略策定部会	以下について協議 ・人口ビジョン及び総合戦略策定に向けたアンケート調査の実施について
7 月 29 日	第 2 回 一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議	以下について協議 ・一関市人口ビジョン(骨子案)について ・一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略(骨子案)について
8 月 10 日	一関市まち・ひと・しごと創生本部 第 3 回人口ビジョン策定部会及び総合戦略策定部会	以下について協議 ・一関市人口ビジョン(骨子案)について ・一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略(骨子案)について ・地方創生に関する国の財政支援について

8月26日	第3回 一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議	以下について協議 ・一関市人口ビジョン（素案）について ・一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）について
8月29日	総合計画基本計画等策定に係るタウンミーティング	以下について説明 ・一関市人口ビジョンについて ・一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
9月14日	一関市まち・ひと・しごと創生本部 第4回人口ビジョン策定部会及び総合戦略策定部会	以下について協議 ・一関市人口ビジョン（素案）について ・一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）について
9月29日	第4回 一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議	以下について協議 ・一関市人口ビジョン（案）について ・一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について
10月5日 ～16日	パブリックコメント	・一関市人口ビジョン（案）について ・一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について
10月13日	一関市まち・ひと・しごと創生本部 第5回人口ビジョン策定部会及び総合戦略策定部会	以下について協議 ・一関市人口ビジョン（案）について ・一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について
10月14日	第5回 一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議	以下について協議 ・一関市人口ビジョン（案）について ・一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について
10月16日	一関市議会 議員全員協議会	以下について説明 ・一関市人口ビジョン（案）について ・一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について
10月19日	第2回 一関市まち・ひと・しごと創生本部会議	以下について説明 ・一関市人口ビジョン（案）について ・一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について
10月23日	一関市まち・ひと・しごと創生本部 第6回人口ビジョン策定部会及び総合戦略策定部会	以下について協議 ・一関市人口ビジョン（案）について ・一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について
10月27日	一関市人口ビジョン及び一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定	

## 一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議における主な意見・提言

### ◆「しごと」

#### 1 安定した雇用を創出する

##### (1) 地場産業の振興

- 誘致企業は給料が高く、地場企業が人材確保に苦勞しているとの声が聞かれるので、地場企業に対する支援が必要と思う。
- ふるさと納税の返礼品について、やり方によっては地場企業への固定的な需要となり、雇用創出や、地場製品のPRにつながると考えられる。
- 産業がなければ市は衰退してしまう。産業支援が重要だと考えている。ビジネスマッチングなど、行政と一緒にやっていくが、複数回参加しないとなかなか成果が表れないところであり、支援があってもよい。

##### (2) 雇用の場の創出

- Uターンしても仕事がない。地場の農業法人を拡大させるなど、雇用の場を作らないと戻ってきて仕事がないということになる。
- 仕事の創出について、うまくいっている農業法人等は会計職員がしっかりしており、補助金の獲得や、事業展開を進めているので、会計・経理の経験者を農業経営体に取り込んだり、協力してもらうことで雇用が生まれるのではないかと。
- 子どもの数が減り、子どもの大学進学率が高くなっているが、勉強してきても仕事がないという話を聞く。帰ってきたい若い人がいるのに、受入先がないのは残念で、その面を充実していけばよいのではないかと。

##### (3) 人材の育成

- 食育や農業についてなど、教育現場では単発に終わっていると思う。幼稚園・小学校の教育に特化して力を入れることが長い目で見て必要ではないかと感じている。
- 子どもに仕事について理解してもらう取組みが必要であり、キャリア教育について盛り込むべきだと思う。
- 人材育成について、素案にもある地域企業が求める知識や技能に係る人材育成という観点で講座を開いたり、オーダーメイドの研修を実施したりしている。大企業は独自の人材育成を行っているが、中小企業ではその余裕がない面があるので、合同で研修を行うなど、人材育成も地域全体で考える必要性を感じている。
- 古民家だけでなく、農業や伝統工芸についても、魅力的であっても後継ぎがないことが一番の問題だと考えている。補助金を出せば何とかなる問題ではなく、どうやって継続させていくのかということが重要ではないかと。後継者のための支援策を考えてほしい。

#### 2 新しい人の流れをつくる

##### (1) 若者定着の推進

- 地元学校から地元への就職に関しては、ハローワークなどから協力がいただけるが、地元を離れると地元就職に関する情報が得にくいのではないかと。
- 高専や実業高校などでの専門教育という資産を雇用に結びつけるなど、活用できればよいと思う。

- 若者の人口流出について、市内に進学先が少ないので、進学や就職で若者が市外へ流出するのは仕方がないが、若者が卒業後に戻ってくるかどうかは仕事が最も重要ではないか。

(2) 移住・定住の推進

- 市内への移住について各団体で取り組んでいるが、窓口が一つのほうが相談しやすい。
- 空き家対策などは市役所を紹介したりしているが、一本化が望ましいと思う。
- 雰囲気が良いという理由で古民家を購入する方がいる。古民家の雰囲気を生かして街並みに統一性、オリジナル性を持たせる手段になるのではないか。

(3) 交流人口の拡大

- 流動人口を増やすためには観光資源をどう活用するかということで、例えば何も無いことに対して観光客が来る、ということも考えたほうがいいのではないか。
- 観光について、一関は資源が多いが、来る方のニーズに対応してコーディネートしてくれる人がいると良い。観光客が増えることというより、雇用を生み出したり、関わった人にお金が分配されることが大事である。
- 山奥や古民家などで開催したクラフターズマーケットは、以外にも若い女性に人気がある。デジタル化が進む一方で、若い人は古い物を求める動きもある。

(4) 地域の魅力増進や知名度の向上

- 転入する際の情報はホームページで調べやすいといいし、転入手続きの際に、子育て支援や、学校について案内してもらえると助かる。

## ◆「ひと」

### 1 結婚、出産の希望をかなえる

#### (1) 結婚支援

- 若い人が子どもを産んで育てるにはお金がかかるので、保育園を無料にするなど、思い切った政策を取らないと出生率は伸びていかないし、その前に若い男女が結婚して子どもを産み育てたいと思えるまちにしてほしいと思う。
- 田舎では婿を希望する女性が多い。お婿さん希望の女性限定の婚活イベントなど、ピンポイントで集まってもらいやり方も良いと思う。
- 「若い世代の結婚、出産の希望をかなえる」となっているが、若い世代に限らず、それ以外の方々の願いもかなえられる暖かいまちであればいいと思う。

#### (2) 妊娠、出産への支援

- 子育て支援を打ち出せば出生率は上がると思う。保育所、幼稚園で第3子から無料となっているが、他では第2子から無料のところもある。医療費は今年から中学生まで補助されるので魅力的であるが、小学生に上がった後の補助がないと感じる。
- 出産祝い金はインパクトが強いと思う。出産時、復職時、入園・入学時など段階的に支給したり、プレミアム商品券のような商品券で支給する方法もあるかと思う。
- 子どもが生まれてから子育て環境について気にするようになるが、母子手帳を貰う頃に一関市の子育ての楽しみ方というような冊子があると解りやすいのではないかな。

### 2 安心して子育てを楽しめる環境の形成

#### (1) 子育て支援の充実

- 子育てについて、小さい子どもを抱えるシングルマザーが地元に戻ってくるケースが見られる。生活費を削減したいということや、子どもを見てくれる人がいる、ということが理由であり、生活費の支援や、子育て費用の減免といった施策を打ち出すことで、同じ境遇の方々に伝わっていくのではないかな。
- 小学生で費用としてかかっているのは給食費なので、一部補助があるとよいのではないかな。給食を充実させるのも支援になる。
- 子育て世代が親として成長するための指導が受けられるとよいと感じる。
- 他県では、市が発行する「子どもがいます」というカードを提示すると、飲食店などで割引が受けられるといったサービスがあった。子育てしながら楽しめるという環境づくりもよいのではないかな。

#### (2) 教育環境の充実

- 15歳人口の減少は非常に厳しい。一高が定員割れし、高専も志願倍率も落ちたが、市内からの志願者が極端に減っている。人口減少のカーブ以上に現実には進んでいると思う。
- 経済界などからも、奨学金制度の充実が効果的という意見が多い。
- インターナショナルスクールは市外から人を呼び込むことができていると思っている。インターナショナルスクールがある地域は東北では非常に限られており、子供の頃から国際交流できるのは魅力的だと思う。

### (3) 就労環境の整備

- これから子どもの数が減って働き手が減れば女性が進出せざるを得ないので、女性が色々なところへ進出してほしいが、女性が働きやすい環境を整えないと女性は働けない。ここが一番大きな問題だと思う。
- 子どもが病気になった時に休みやすい、育休が取りやすく、復職しやすいなど、雇用の多様化が図られるとよい。
- 人口が減少することでどうなるのか、ということを知っていく必要があるし、出産祝い金を出している企業もあることから、市だけに求めるのではなく、企業にも働きかけて一緒に考えていくということも必要かと思う。



## ◆「まち」

### 1 地域で安全に安心して暮らせる環境の整備、充実

#### (1) 医療、福祉、介護体制の充実

- CCRC について、アクティブシニアを受け入れて、ビジネスとして成り立たせるという面がある。一関市は交通有利地であり、首都圏から日帰りで親に会いに来られるという環境を生かして、福祉や CCRC といった方向性も考えられる。
- 中学生までの医療費無料はありがたいが、地域によっては病院が少なく、子どもが病気になったときに不便である。総合病院があっても、診療科によっては先生が毎日はおらず、時間をかけて一関まで来るのは大変である。近くの医療機関が充実することで、子育てをするうえで助かると思う。

#### (2) 地域生活の支援

- 高齢者が悪いような感じになっているが、そうではなく、高齢者が住みよいまちづくりという視点が大事ではないか。
- 基本的にはどの市町村も同じようなことを考えるので、その中で一関市の特徴を見出さなければならぬが、一番は住みやすさだと思う。住みやすい環境がなければ定住も就労もないので、住みやすい環境をつくることを主体に考えてほしいと思う。住みやすさを中心とすることが一つの方法であり特色になるのではないかと思う。

#### (3) 暮らしの安全対策

- 「疎開」は有意義だと思った。震災後、関東で放射線濃度が高くなった地域から、小さい子どもがいて、都合がつく人は引っ越していた。何かあった時の受入態勢が一関市に明確にあれば、何らかの効果を生むと思う。
- 先日の台風で被害を受けた茨城県常総市では、市内に在住する外国人が人口の6%いて、外国語での避難勧告ができなくて逃げ遅れた方がいたとのことだが、一関市では外国人がどれくらいいて、被災時にはどのような対策を取るのか。

## ◆「未来」

### 1 将来にわたって持続可能なまちづくり

#### (1) ILC を基軸としたまちづくり

- 特色として ILC があるが、実現できなかった場合についても考えた方が良いのではないかと思う。

#### (2) 資源・エネルギー循環型のまちづくり

- バイオマスについては、不安定な要素があったり、コスト計算上は見合わないと見受けられ、より可能性のあるリサイクルや新エネルギーなど、有識者の意見をいただいて現実的に考えたほうがよいと思う。

#### (3) 東日本大震災からの復旧復興

- 東日本大震災の復旧・復興の指標として原木しいたけの年間生産量となっているが、復旧・復興を表すものとしては別のものがよいのではないか。

### 2 連携と協働によるまちづくり

#### (1) 地域コミュニティ活動の活性化

- 地域と小学校との交流について、市がコーディネートしてくれるが、校長先生の意向によるところがあるので、もっと交流が進むと良いと思う。

#### (2) 地域間の連携

- コンパクトシティのように都市機能の集約を図り、集約された都市間で協力してお互いに成り立っていくという方向性が考えられる。

#### (3) 行政機能の効率化

- 一関は社会減も自然減も対応しなければならないが、市の力で戦略の取組を全部行うのは大変だと思うので、絞込みも必要と考えられる。
- 総合計画と7~8割の内容が重複していると思った。今後限られた職員と予算でどのように実行していくのか心配に思う。
- 市役所内の各部課同士がうまく調整していかないと厳しいのではないか。市役所からすると、総合計画やまち・ひと・しごとなど、違う種類の計画や戦略だとしても、市民の側からすれば、同じようなことを2回、3回と要求されたり、質問されたりとを感じるかもしれないので、そういう事がないように上手く進めてほしい。
- 市の支所等の空いているスペースに希望する金融機関の支店を入れるなど、資産を有効活用しても良いのではないか。

## 一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員名簿

(任期：平成 27 年 6 月 24 日～平成 29 年 6 月 23 日)

団体名	職名	氏名	備考
岩手県南広域振興局	経営企画部産業振興課主査	秋山 真紀子	
いわて平泉農業協同組合	代表理事専務	伊藤 龍治	
ニッコー・ファインメック株	代表取締役社長	小野寺 真澄	
一関コミュニティFM	放送局長代理	河合 純子	副座長
東日本旅客鉄道	一ノ関駅助役	熊谷 由美子	
一関信用金庫	常務理事	佐々木 吉幸	
一関商工会議所	商業部会長	佐藤 馨	
岩手日日新聞社	総務局総務部	佐藤 進	
一関商工会議所	女性会会長	佐藤 善子	
一関工業高等専門学校	校長	柴田 尚志	
一関市男女共同参画プラン策定懇話会	委員	鈴木 里美	
一関市子ども・子育て会議	委員	滝上 亜寿香	
岩手県立大学	地域連携室特任准教授	千葉 実	座長
一関公共職業安定所	所長	千葉 幸則	
連合岩手一関地域協議会	事務局長	野村 勉	
岩手銀行	一関支店支店長	藤田 勝敏	
修紅短期大学	講師	渡邊 美紀子	

## 「一関市まち・ひと・しごとを語る会」における主な意見・提言

### ◆「しごと」

#### 1 起業者を増やす（応援する）ためにはどうしたらいいか

- (1) 相談窓口が分からないとの意見や、経験者から話を聞ける機会があるとよいとの意見が多かった。
- (2) 支援策としては空き店舗や廃校などの活用についての意見が多かったほか、資金的な支援や、高齢で後継者のいない方の事業を引き継げるような実態把握及びマッチングをしてはどうか、との意見もあった。
- (3) 資源としては、一次産品についての意見が多かったほか、福祉分野、ものづくり分野や平泉と関連した分野についての意見もあった。
- (4) このほか、若い人たちの発想を活用してはどうか、との意見があった。また、一般的に人づくりが大切であるとの意見や、地元の人が案外地元のことや自慢できるものが分かっていない、との意見もあった。

#### その他の意見

- ・外国籍の人が店を出したいといわれたが、外国人に貸す人がいない
- ・地元より移住者のほうが意欲ある
- ・起業者が立ち行かなくなっているケースは多い

#### 2 一関産のブランド化を図るためにはどうしたらいいか

- (1) ブランド化そのものについて、積み重ねが必要ですぐにできるものではないとの意見の一方で、ネット社会で盛り上がる要素があるとの意見があった。また、地元で愛着を持って広げていくべきとの意見の一方で、外からの視点・外への発信が大事との意見が出された。
- (2) 具体的な産物として曲りねぎやいわて南牛など、一次産品が多く挙げられたほか、健康に関するものは影響力が大きいことや、環境に力を入れていることがブランド化につながるのではないか、との意見もあった。
- (3) 高付加価値化については、難しい、努力が必要との意見が多かった。
- (4) また、一関で何か一つこれだ、というのは難しいという意見や、駅などで土産物や特産品を見つけれないとの意見もあった。  
このほか、地域の祭りや伝統芸能などの発信や、外からの体験・交流などについて意見があった。

#### その他の意見

- ・名もない一関のものを出しても売れない、といわれた
- ・B-1への参加。そういう人に応援を

### 3 仕事を魅力のあるものにするにはどうしたらいいか。

- (1) 女性が働き続けるうえでの出産・育児への不安や、産休・育休の取りにくさについての意見が多かった。  
対応として、父親の子育てへの協力や、それが可能となるような職場の理解を求める意見や、行政への支援を期待する意見があった。
- (2) 一関にどのような仕事があるか、学生のうちに職場体験などを通じて伝えては、との意見があった。また、一関では希望する仕事がないという意見と、逆に必ずしもそうではないとの意見があった。
- (3) また、仕事の魅力は職場の理解から生まれるとの意見や、仕事以外の生活の部分にもよるのでは、との意見もあった。

#### その他の意見

- ・収入アップの方法、生きるための力、仕事をするということについての教育が必要
- ・再雇用の際、それまで経験してきたことを生かせる職がもっとあればいい。起業にもつながるのでは
- ・理容・美容・エステは働き続ける人が少ないとのこと。就労環境が良くないのか

### 4 一関市に移住してもらうためにはどうしたらいいか。

- (1) 魅力としては、食の美味しさ、地域の安心・安全、人の良さ、子育てのしやすさなどが挙げられた。また、駅周辺を魅力的に、元気にしてほしいとの意見があった。
- (2) 支援策としては、空き家を移住希望者に提供しては、との意見が多かったほか、家賃が高いのでその支援をという意見があった。  
また、農村生活を求める人たちへの対応についての意見があった。
- (3) また、1ターンではなく出身者が戻ってくることについての意見が多かった。  
進学で出ていった子どもたちが戻ってきたいという環境を作るべきだが、結婚・出産を経ると難しくなる、との意見があった。  
ほか、転勤で一関に来た方からは、一関は住みやすいとの声があるとの意見が複数あった。

#### その他の意見

- ・バスや鉄道が1時間1本では不便
- ・都会で何十年も働いた人が、逆に田舎に魅力を感じる
- ・泊まる場所がないので一関は通り過ぎてしまう

## ◆「ひと」

- 1 結婚したいと思えるためには。結婚を希望する人が結婚できるためにはどうしたらいいか。
- (1) 結婚してよかったという話が聞こえてこないことや、仕事やプライベートが楽しいため結婚したいと思わない、年齢が増すと結婚に魅力がなくなるという意見があった。  
また、年齢が増すと話が来なくなる、という意見もあった。
  - (2) 男性は経済的な面、女性は仕事を続けたいことや親との同居が支障になるとの意見があった。  
また、長男や長女、一人っ子など、家のことを考えて、結婚に踏み出せないとの意見もあった。  
女性の負担感を減らすことが必要との意見があった。
  - (3) 出会いの機会がないとの意見があった。  
また、昔は出会い・見合いの場を作ってくれる人が周囲にいたが今はおらず、若い年代であまり押し付けをせずに出会いを取り持ってくれる人がいるとよい、との意見があった。  
このほか、趣味などを通じた自然な出会いがあるとよい、との意見もあった。
  - (4) 婚活パーティーや街コンについて、いかにも「婚活」的にやられると行きにくい、気軽に参加できるイベントが良いとの意見が多かった。  
また、実施するうえで、地元では行きにくかったり、いつも同じメンバーになったりすることから、他地域と合同で開催するなど、場所やメンバーが変わるようにしたほうがよいとの意見があった。

### その他の意見

- ・結婚希望していない人はどれくらいか？ 希望していない人の割合を調査してみてもいいか？
- ・以前は企業間の事業所の交流会があった。時代の流れで交流会もなくなった。人との出会いの機会がなくなってしまった

- 2 安心して出産、子育てができるためにはどうしたらいいか。
- (1) 産婦人科、小児科が少ないとの意見が多かった。
  - (2) 出産や育児、赤ちゃんの病気について学べる場や、不安を相談できる体制があるとよいとの意見があった。
  - (3) 仕事と子育てを両立できるような職場の理解が必要との意見があった。  
また、夫の協力が必要であり、男性の育休がもっと活用されればよいとの意見もあった。
  - (4) このほか、金銭的な支援が必要との意見や、検診が大変という意見があった。

### その他の意見

- ・放課後児童クラブをもう少し増やしてもらった方がよい。地域ボランティアの協力をもらって、近い場所にたくさん増やして。
- ・企業の育児支援に対する評価をしてみてもいいか？いい企業に三つ星評価やメリットを与えてみる？

### 3 子どもが健やかに育つためにはどうしたらいいか。

- (1) 公園など遊べる場所の充実を求める意見の一方、公園が安心できない、また、子どもたちがゲームなどで遊んで外に遊びにいかない、などの意見があった。
- (2) 地域で子どもを見守ることが大事との意見がある一方、子どもが地域の行事に参加できていないとの意見もあった。
- (3) 育児について相談できたり、子どもを預けられたりといった支援を求める意見があった。また、父親の育児参加を進める取り組みが必要との意見もあった。

#### その他の意見

- キャリア教育が必要ではないか。テストや部活だけが大切ではなく、地域で子供にも役割を持たせて活動（たとえば、祭りの準備を手伝うとか）を行う
- 学童保育の送り迎えの問題が利用のネックになっていることもあるようだ
- 「まちの駅」のように「ひとの駅」ができないか？歩いていける距離にこどもでも大人も、高齢者でも利用・交流できる場。子どもが遊んでもいい。お茶のみをしてもいい場となる

## ◆「まち」

### 1 地域づくりに主体的に参加するためにはどうしたらいいか。

- (1) 地域活動は年配者が中心となっていて、若い人が参加していない。また、近い年代がないので、若い人が出たがらないという悪循環になっているという意見が多かった。
- (2) 若い世代が参加しない理由として、土日休みではない人が増えていることや、部活動など子どもたちの行事を優先することが挙げられている。  
また、親が参加しないことで、その子どもも大人になった時に参加しなくなるという意見もあった。
- (3) 役割を持たせて参加意識を高め、やりがいを持ってもらう。かつ、それを子どもの頃から続けていくことが大事との意見が多く出された。

#### その他の意見

- ・昨年初めて、摺沢七夕交流会が開催された。発信は官（公民館）。いろいろな世代でのイベントがあり、大成功だった

### 2 だれもが元気で暮らすためにはどうしたらいいか。

- (1) お年寄り生きがいを持ってもらうことで元気になるので、そのための機会を作ることが大事という意見が多かった。
- (2) 高齢者だけでなく、若い人や子育て世代の人にも趣味の活動ができる場があるとよいという意見があった。
- (3) このほか、普段の生活の中にある健康を脅かす要因についての意見があった。

### 3 安心して暮らすためにはどうしたらいいか。

- (1) 地域コミュニティとしてお互いを知っているという関係が安心につながるという意見があった一方、現実には隣に誰が住んでいるか分からない、とか、他人を警戒せざるを得ない、というような意見もあった。
- (2) 特に高齢の一人暮らしの方が安心して暮らせるように、定期的な見守りや見回りが必要との意見があった。
- (3) 食や衣食住全ての充足が安心であり、そのための取組みや PR が大事との意見があった。

#### その他の意見

- ・街灯が少なく真っ暗。街灯の間隔が広く子供が心配
- ・民生委員の仕事は増えている。気の休まる時がない。この仕事が好きでないとできない



4 ふるさとに誇りと愛着を持つためにはどうしたらいいか。

- (1) この土地に生まれて、子どもの頃の楽しかった思い出があって愛着が生まれるという意見や、離れて外に出ることで愛着を持つといった意見があった。
- (2) 外に出て戻ってきた人も、家庭の事情や何らかのきっかけによるとの意見もあった。
- (3) 戻ってきたときに、仕事や遊ぶ場所などの選択肢が少なく、魅力がないとの意見が多かった。

その他の意見

- ・今の高校生は地元志向が強いので、定着できるような環境づくりを
- ・出て行った人に対するダイレクトメール。大東町の方が個人(3~4人)で出していたものがあったが、地元に住んでいる人が読んでも面白いと感じた

## 一関市まち・ひと・しごとを語る会 市民参加者名簿

氏名	地域	所属
阿部 由佳	一関	一関ケーブルテレビネットワーク
佐藤 大輔	大東	いちのせき市民活動センター
氏家 利子	一関	一関地域統計調査員協議会
齋藤 裕美	一関	中里鶏舞踊り隊（代表） 中里まちづくり協議会事務局
田中 真志美	一関	たっこたい民泊プロジェクト事務局 農家民宿レストラン「あんすろーじ」
高橋 芳宏	一関	自営業（テーラー高橋） 一関地域防犯隊副隊長、一関地域防犯協会理事
石川 典子	一関	保健推進委員
佐々木 みず恵	花泉	両磐地区地域包括・在宅介護支援センター協議会
山田 ゆみ	一関	（非常勤一般職）
大浪 友子	一関	株式会社亀の子せんべい本舗大浪 常務取締役
小野寺 真澄	千厩	ニッコーファインメック株式会社 代表取締役社長
小山 久美	一関	ジョブカフェ一関（就職アドバイザー キャリア教育担当）
小野寺 伸吾	大東	会社役員（テクノボイズ代表）
昆野 由香	藤沢	農業（ピーマン）
佐藤 誠	大東	会社役員（佐藤工夢店 代表取締役） 岩手県建築士会千厩支部、岩手県宅地建物取引業協会
伊藤 桂悦	一関	前舞川地区水道利用組合長
黒澤 由佳	一関	修紅短期大学付属認定こども園副園長
井手 聡子	一関	ふくろう会（図書館ボランティア）
浅利 真由美	一関	団体職員・舞川小学校PTA副会長
熊谷 七重	花泉	いずみの森幼稚園PTA会長
青柳 さつき	大東	子育てサークル「れっくる」代表
千葉 康博	千厩	一関社会福祉協議会大東支部勤務 清田親交会青年部長、JrリーダーOB会岩手支部会長
安東 亮子	東山	団体職員
佐藤 紀子	室根	室根まちづくり協議会 事務局
小野寺 さち子	川崎	川崎町婦人消防協力隊 隊長
時田 さとみ	藤沢	藤沢中学校PTA会長
小野寺 碧	東山	一関市消防団東山第3分団第4部（団員）
大矢 美恵子	一関	関生園住宅介護支援事業所

## 「一関市人口ビジョン」の策定に係るアンケート調査結果

### I 「結婚・出産・子育てに関する市民アンケート調査」

#### 1 調査の目的

一関市在住の市民に対してアンケート調査を行い、結婚・出産・子育てに関する意識や実態を把握し、今後の施策等の検討に活用する。

#### 2 調査概要

##### (1) 調査対象

市内在住の18～49歳の男女各1,000名を無作為抽出した。

##### (2) 調査内容

問1～問8	あなた自身のこと
問9～問13	一関市での居住について
問14～問23	結婚について
問24～問34	出産・子育てについて

##### (3) 調査方法

調査票を郵送により配布、回収する。

##### (4) 調査実施期間

平成27年7月17日（金）～平成27年7月31日（金）

#### 3 回収結果

	計
配布数	1,900票
回収数	564票
回収率	29.7%

#### 4 調査結果

問1 あなたの性別をお答え下さい。(1つに○)

「女性」が60.8%と半数以上を占めており、「男性」が38.8%となっています。

	人数	割合
1. 男性	219	38.8%
2. 女性	343	60.8%
無回答	2	0.4%
合計	564	100.0%

問2 あなたの年齢は、おいくつですか。

「40代」が最も多く45.7%となっており、次いで「30代」が32.4%となっています。

	人数	割合
1. 20歳未満	19	3.4%
2. 20代	90	16.0%
3. 30代	183	32.4%
4. 40代	258	45.7%
5. 50代	6	1.1%
6. 60代以上	4	0.7%
無回答	4	0.7%
合計	564	100.0%

問3 あなたのお住まいの地域はどこですか。(1つに○)

最も多いのが「一関地域」で54.8%と半数以上となっており、他は10%以下となっています。

	人数	割合
1. 一関地域	309	54.8%
2. 花泉地域	56	9.9%
3. 大東地域	45	8.0%
4. 千厩地域	51	9.0%
5. 東山地域	42	7.4%
6. 室根地域	20	3.5%
7. 川崎地域	13	2.3%
8. 藤沢地域	26	4.6%
無回答	2	0.4%
合計	564	100.0%

問4 あなたの就労の状況について伺います。(1つに○ (兼業の方は主たる方に○))

「正社員、正規の職員」が多く 45.6%となっており、次いで「パート・アルバイト」が 18.3%となっています。

	人数	割合
1. 自営業主、家族従事者	36	6.4%
2. 会社役員、団体役員	16	2.8%
3. 正社員、正規の職員	257	45.6%
4. 派遣・嘱託・契約社員	45	8.0%
5. パート・アルバイト	103	18.3%
6. 専業主婦・専業主夫	53	9.4%
7. 学生	22	3.9%
8. 無職	17	3.0%
9. その他	13	2.3%
無回答	2	0.4%
合計	564	100.0%

問5 あなたの勤務先、通学先はどちらですか。

(1つに○ (複数ある方は主たる方に○))

「一関市内」が最も多く 69.7%を占めており、次いで「岩手県内」が 10.3%となっています。

	人数	割合
1. 一関市内	393	69.7%
2. 岩手県内	58	10.3%
3. 岩手県外	40	7.1%
4. 通勤・通学していない	39	6.9%
無回答	34	6.0%
合計	564	100.0%

問6 あなたは、現在、結婚されていますか。(1つに○)

「既婚または近々結婚の予定」が 67.0%と最も多く、次いで「未婚」が 26.6%となっています。

	人数	割合
1. 既婚または近々結婚の予定	378	67.0%
2. 未婚	150	26.6%
3. 以前結婚していた	36	6.4%
無回答	0	0.0%
合計	564	100.0%

問7 あなたの家族構成について伺います。(1つに○)

「あなたと配偶者と子ども」が最も多く 28.2%となっており、次いで「三世代以上が同居」が26.4%となっています。

	人数	割合
1. 一人暮らし	29	5.1%
2. 夫婦のみ	34	6.0%
3. あなたと子ども	12	2.1%
4. あなたと配偶者と子ども	159	28.2%
5. 二世世代世帯(親とあなた(未婚))	95	16.8%
6. 二世世代世帯(あなたと配偶者と親)	66	11.7%
7. 三世代以上が同居	149	26.4%
8. その他	18	3.2%
無回答	2	0.4%
合計	564	100.0%

問8 あなたの年収について伺います。

(結婚している方は配偶者の年収も含む)(1つに○)

年収は「200万円～400万円未満」が最も多く 33.0%、次いで「200万円未満」が32.8%となっています。

	人数	割合
1. 200万円未満	185	32.8%
2. 200万円～400万円未満	186	33.0%
3. 400万円～600万円未満	100	17.7%
4. 600万円～800万円未満	54	9.6%
5. 800万円～1000万円未満	17	3.0%
6. 1000万円以上	6	1.1%
無回答	16	2.8%
合計	564	100.0%

問9 あなたは一関市にお住まいになってどれくらいになりますか。(1つに○)

「20年以上」が62.2%と半数以上を占めており、次いで「10年～19年」が18.8%となっています。

	人数	割合
1. 5年未満	56	9.9%
2. 5年～9年	44	7.8%
3. 10年～19年	106	18.8%
4. 20年以上	351	62.2%
無回答	7	1.2%
合計	564	100.0%

問10 あなたのお住まいの形式をお選び下さい。(1つに○)

「一戸建て(持ち家)」が最も多く73.8%を占めており、次いで「アパート・マンション(賃貸)」が12.1%となっています。

	人数	割合
1. 一戸建て(持ち家)	416	73.8%
2. 一戸建て(賃貸)	49	8.7%
3. アパート・マンション(持ち家)	8	1.4%
4. アパート・マンション(賃貸)	68	12.1%
5. 社宅・寮	10	1.8%
6. その他	10	1.8%
無回答	3	0.5%
合計	564	100.0%

問11 あなたは、現在お住まいの地域の住み心地をどのように感じていますか。

(1つに○をし、その理由をご記入ください。)

最も多いのは「どちらかといえば住みやすい」で49.1%と半数近くとなっており、次いで「住みやすい」が28.2%となっています。

	人数	割合
1. 住みやすい	159	28.2%
2. どちらからといえば住みやすい	277	49.1%
3. どちらからといえば住みにくい	92	16.3%
4. 住みにくい	32	5.7%
無回答	4	0.7%
合計	564	100.0%

問 12 あなたは、現在のお住まいの地域にこれからも住み続けたいと思いますか。

(1つに○をし、その理由をご記入ください。)

「どちらかといえば住み続けたい」が 35.3%、次いで「住み続けたい」が 34.0%となっています。

	人数	割合
1. 住み続けたい	192	34.0%
2. どちらからといえば住み続けたい	199	35.3%
3. どちらからといえば住み続けたくない	51	9.0%
4. 住み続けたくない	32	5.7%
5. わからない	81	14.4%
無回答	9	1.6%
合計	564	100.0%

問 13 転出（転居）する可能性があるとした場合、どこに住みたいですか。

(1つに○をし、地域名をご記入ください。)

「わからない」が最も多く 44.3%となっており、次いで「他の都道府県」が 25.7%となっています。

	人数	割合
1. 一関市内の別地域	71	12.6%
2. 一関市外の県内市町村	54	9.6%
3. 他の都道府県	145	25.7%
4. 外国	23	4.1%
5. わからない	250	44.3%
無回答	21	3.7%
合計	564	100.0%

問 14 【問6で「既婚または近々結婚の予定がある」を回答した方へ】

結婚された（する）時期は、希望どおりの年齢でしたか。(1つに○)

最も多いのが「希望どおり」で 51.1%と半数を占めており、次いで「希望はもっと早かった」が 29.4%となっています。

	人数	割合
1. 希望どおり	193	51.1%
2. 希望はもっと早かった	111	29.4%
3. 希望はもっと遅かった	45	11.9%
無回答	29	7.7%
合計	378	100.0%



問 15 【問 6 で「既婚または近々結婚の予定がある」を回答した方へ】

結婚されたのは何歳のときですか。(1つに○)

「25歳～30歳未満」が37.3%と最も多く、次いで「20歳～25歳未満」が30.2%となっています。

	人数	割合
1. 20歳未満	10	2.6%
2. 20歳～25歳未満	114	30.2%
3. 25歳～30歳未満	141	37.3%
4. 30歳代	98	25.9%
5. 40歳以上	6	1.6%
無回答	9	2.4%
合計	378	100.0%

問 16 【問 6 で「既婚または近々結婚の予定がある」を回答した方へ】

結婚を決めた直接的なきっかけはどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

「年齢的に適当な時期だと感じた」が最も多く42.9%となっており、次いで「出来るだけ早く一緒に暮らしたかった」が28.0%、「子どもができた」が23.5%となっています。

	人数	割合
1. 結婚資金の用意ができた	8	2.1%
2. 収入が安定し結婚生活のための経済的基盤ができた	41	10.8%
3. 自分または相手の仕事の事情	38	10.1%
4. 出来るだけ早く一緒に暮らしたかった	106	28.0%
5. 年齢的に適当な時期だと感じた	162	42.9%
6. 出来るだけ早く子どもが欲しかった	57	15.1%
7. 子どもができた	89	23.5%
8. 友人や同世代の人たちが結婚していたから	29	7.7%
9. 親や周辺の勧め	33	8.7%
10. その他	24	6.3%
無回答	9	2.4%
合計	596	

問 17 【問6で「既婚または近々結婚の予定がある」を回答した方へ】

今のパートナーとはどこで知り合いましたか。(1つに○)

「職場や仕事」が 32.5%と最も多く、次いで「友人や兄弟姉妹を通じて」が 28.8%となっています。

	人数	割合
1. 職場や仕事	123	32.5%
2. 幼なじみ・隣人	12	3.2%
3. サークル・クラブ・習い事	19	5.0%
4. 学校	36	9.5%
5. お見合い	15	4.0%
6. 友人や兄弟姉妹を通じて	109	28.8%
7. 旅先や街なか	11	2.9%
8. インターネットを通じて	16	4.2%
9. 結婚相談所などの結婚情報サービス	3	0.8%
10. 婚活イベントなど	3	0.8%
11. その他	19	5.0%
無回答	12	3.2%
合計	378	100.0%

問 18 【問6で「未婚」「以前結婚していた」を回答した方へ】

あなたは、結婚したいですか。(1つに○)

「時期にはとらわれていないが結婚したい」が最も多く 31.7%となっており、次いで「結婚はまだ考えていない」が 23.7%となっています。

	人数	割合
1. 早めに結婚したい	42	22.6%
2. 時期にはとらわれていないが結婚したい	59	31.7%
3. 結婚はまだ考えていない	44	23.7%
4. 結婚したくない	22	11.8%
無回答	19	10.2%
合計	186	100.0%

問 19 【問 6 で「未婚」「以前結婚していた」と回答した方へ】

何歳ぐらいで結婚したいですか？その年齢をお書きください。

「25 歳～30 歳未満」「30 歳代」「40 歳以上」に集中しています。

	人数	割合
1. 20歳未満	0	0.0%
2. 20歳～25歳未満	6	3.2%
3. 25歳～30歳未満	27	14.5%
4. 30歳代	25	13.4%
5. 40歳以上	29	15.6%
無回答	99	53.2%
合計	186	100.0%

問 20 【問 6 で「未婚」「以前結婚していた」を回答した方へ】

今後結婚するとしたら、どのような条件が必要ですか。

(あてはまるものすべてに○)

「安定した収入」が最も多く 46.8%と半数近くとなっており、次いで「結婚資金、結婚後の生活資金の確保」が 41.9%となっています。

	人数	割合
1. 結婚資金、結婚後の生活資金の確保	78	41.9%
2. 親や周囲の結婚への同意	33	17.7%
3. 安定した収入	87	46.8%
4. 職場の理解	17	9.1%
5. 住居の確保	34	18.3%
6. その他	7	3.8%
無回答	80	43.0%
合計	336	

問 21 【問 6 で「未婚」「以前結婚していた」を回答した方へ】

現在、未婚である理由はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

「理想の相手にまだめぐり合えないから」が最も多く 33.3%となっており、次いで「経済力がないから」が 29.6%となっています。

	人数	割合
1. 結婚するにはまだ若いから	18	9.7%
2. 理想の相手にまだめぐり合えないから	62	33.3%
3. 異性とうまく付き合えないから	16	8.6%
4. 相手に結婚する気がないから	5	2.7%
5. 相手に結婚できない事情があるから	5	2.7%
6. 仕事(又は学業)に専念したいから	10	5.4%
7. 経済力がないから	55	29.6%
8. 親や周囲が反対しているから	1	0.5%
9. 親や親戚の介護などにより親元から離れることができないから	8	4.3%
10. その他	12	6.5%
無回答	80	43.0%
合計	272	

問 22 【問 18 で「結婚はまだ考えていない」「結婚したくない」を回答した方へ】

結婚をまだ考えていない、したくない理由はどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

最も多いのは「経済力がないから」で 47.0%、次いで「理想の相手にまだめぐり合えないから」が 39.4%、その他「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が 36.4%、「結婚のメリットがわからないから」が 27.3%、「異性とうまく付き合えないから」が 25.8%の順に多くなっています。

	人数	割合
1. 結婚するにはまだ若いから	8	12.1%
2. 理想の相手にまだめぐり合えないから	26	39.4%
3. 異性とうまく付き合えないから	17	25.8%
4. 仕事(又は学業)に専念したいから	12	18.2%
5. 趣味やレジャーを楽しみたいから	13	19.7%
6. 独身の自由さや気楽さを失いたくないから	24	36.4%
7. 経済力がないから	31	47.0%
8. 生活のレベル・質が落ちるから	3	4.5%
9. 交友関係が狭くなるから	1	1.5%
10. 家族を扶養する責任が生まれるから	8	12.1%
11. 義父母や親戚などとの人間関係が複雑になるから	2	3.0%
12. 結婚のメリットがわからないから	18	27.3%
13. 夫婦別姓が認められていないから	1	1.5%
14. その他	8	12.1%
無回答	2	3.0%
合計	174	

問 23 【問6で「未婚」「以前結婚していた」を回答した方へ】

結婚しやすい、結婚したいと思える環境をつくるには、どのような支援が効果的だと思いますか？（あてはまるものすべてに○）

最も多いのは「安定した雇用機会の提供」で 32.3%、次いで「夫婦とも働き続けられるような職場環境の充実」が 23.7%、その他「女性が働きやすい環境づくり」と「長時間労働の是正、有給休暇の取得促進など、自由な時間の確保」が 23.1%、「男女の出会いの場の提供」が 21.0%の順に多くなっています。

	人数	割合
1. 男女の出会いの場の提供	39	21.0%
2. 夫婦とも働き続けられるような職場環境の充実	44	23.7%
3. 安定した雇用機会の提供	60	32.3%
4. 結婚した方が有利となるような税制や社会保障	29	15.6%
5. 結婚に関する相談体制	15	8.1%
6. 結婚や住宅に対する資金貸与や経済的支援	36	19.4%
7. 安定した住居・住宅の供給	29	15.6%
8. 女性が働きやすい環境づくり	43	23.1%
9. 長時間労働の是正、有給休暇の取得促進など、自由な時間の確保	43	23.1%
10. 結婚は個人の問題であるため、支援は必要ない	15	8.1%
11. その他	5	2.7%
無回答	6	3.2%
合計	364	

問 24 【お子さんがいる方へ】お子さんは何人いますか（同居・別居は問いません）。

（1つに○）

お子さんの人数は「2人」が最も多く 41.1%となっており、次いで「1人」が 27.0%となっています。

	人数	割合
1. 1人	96	27.0%
2. 2人	146	41.1%
3. 3人	94	26.5%
4. 4人	17	4.8%
5. 5人以上	2	0.6%
合計	355	100.0%

問 25 あなたにとって理想のお子さんは何人ですか。(1つに○)

理想のお子さんの人数は「3人」が最も多く48.2%と半数近くになっており、次いで「2人」が39.7%となっています。

	人数	割合
1. 1人	7	2.0%
2. 2人	141	39.7%
3. 3人	171	48.2%
4. 4人	21	5.9%
5. 5人以上	7	2.0%
無回答	8	2.3%
合計	355	100.0%

問 26 【お子さんがいる方へ】

初めてお子さんをお持ちになった年齢をお書きください。

「20歳～25歳未満」「25歳～30歳未満」「30歳代」に集中しています。

	人数	割合
1. 20歳未満	6	1.7%
2. 20歳～25歳未満	92	25.9%
3. 25歳～30歳未満	136	38.3%
4. 30歳代	113	31.8%
5. 40歳以上	7	2.0%
無回答	1	0.3%
合計	355	100.0%

問 26-2 【お子さんがいる方へ】

初めてお子さんをお持ちになるにあたっての理想としていた年齢をお書きください。

「25歳～30歳未満」が最も多く51.8%となっており、次いで「20歳～25歳未満」が23.1%となっています。

	人数	割合
1. 20歳未満	2	0.6%
2. 20歳～25歳未満	82	23.1%
3. 25歳～30歳未満	184	51.8%
4. 30歳代	63	17.7%
5. 40歳以上	0	0.0%
無回答	24	6.8%
合計	355	100.0%

問 27 【お子さんがいる方へ】

2人目以降のお子さんについてお伺いします。2人以上お子さんがいる方は、  
出産前に支障だと感じていたこと、お子さんが1人の方は、2人目以降の出産に  
ついて支障になると想定されることはどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

「出産・育児・教育にお金がかかる」が最も多く 58.3%と半数以上となっており、次  
いで「共働きで育児と仕事の両立が困難」が 32.4%となっています。

	人数	割合
1. 妊娠・出産の心理的・肉体的な負担が大きい	112	31.5%
2. 健康上の理由で妊娠・出産が困難	31	8.7%
3. 年齢が高い	80	22.5%
4. 今いる子どもの育児が大変	82	23.1%
5. 共働きで育児と仕事の両立が困難	115	32.4%
6. 出産・育児・教育にお金がかかる	207	58.3%
7. 育児休暇又は仕事から離れることによる減収	96	27.0%
8. 育児に配偶者の協力が得られない	27	7.6%
9. 育児に配偶者以外の家族の協力が得られない	32	9.0%
10. 育児休暇が取れない	44	12.4%
11. 育児に対する職場の理解がない	42	11.8%
12. 保育サービス等の支援体制が不十分	78	22.0%
13. 住居が狭い・間取りが不十分	52	14.6%
14. 子どもの遊び場が近所がない	70	19.7%
15. 自分や夫婦の時間がとれなくなる	34	9.6%
16. 配偶者・パートナーが子どもを欲しがらない	13	3.7%
17. 特にない	25	7.0%
18. その他	20	5.6%
無回答	7	2.0%
合計	1167	

問 28 【第3子がいる方へ】

3人以上のお子さんをお持ちの方にお伺いします。第3子をお持ちになった年齢  
をお聞かせください。

第3子をお持ちになった年齢では「30歳代」が最も多く 66.4%と半数以上となっ  
ています。

	人数	割合
1. 20歳未満	0	0.0%
2. 20歳～25歳未満	3	2.7%
3. 25歳～30歳未満	30	26.5%
4. 30歳代	75	66.4%
5. 40歳以上	5	4.4%
合計	113	100.0%

問 29 【お子さんがいない方へ】

あなたにとって理想のお子さんは何人ですか。(1つに○)

最も多いのは「2人」で49.8%となっており、次いで「3人」が26.8%となっています。

	人数	割合
1. 1人	9	4.3%
2. 2人	104	49.8%
3. 3人	56	26.8%
4. 4人	3	1.4%
5. 5人以上	2	1.0%
6. 子どもはいらない	17	8.1%
無回答	18	8.6%
合計	209	100.0%

問 30 【お子さんがいない方へ】

子どもを持つとしたら、第一子が生まれるときの理想の年齢は何歳ぐらいですか。

(1つに○)

最も多いのは「25歳～30歳未満」で33.0%となっており、次いで「30歳代」が31.6%となっています。

	人数	割合
1. 20歳未満	0	0.0%
2. 20歳～25歳未満	13	6.2%
3. 25歳～30歳未満	69	33.0%
4. 30歳代	66	31.6%
5. 40歳以上	19	9.1%
無回答	42	20.1%
合計	209	100.0%



問 31 【お子さんがいない方へ】

子どもを産み育てることに、支障になりそうだと感じることはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

「出産・育児・教育にお金がかかる」が 52.2%と最も多く、次いで「年齢が高い」が 36.8%となっています。

	人数	割合
1. 妊娠・出産の心理的・肉体的な負担が大きい	62	29.7%
2. 健康上の理由で妊娠・出産が困難	32	15.3%
3. 年齢が高い	77	36.8%
4. 今いる子どもの育児が大変	5	2.4%
5. 共働きで育児と仕事の両立が困難	60	28.7%
6. 出産・育児・教育にお金がかかる	109	52.2%
7. 育児休暇又は仕事から離れることによる減収	61	29.2%
8. 育児に配偶者の協力が得られない	21	10.0%
9. 育児に配偶者以外の家族の協力が得られない	13	6.2%
10. 育児休暇が取れない	27	12.9%
11. 育児に対する職場の理解がない	31	14.8%
12. 保育サービス等の支援体制が不十分	49	23.4%
13. 住居が狭い・間取りが不十分	16	7.7%
14. 子どもの遊び場が近所がない	23	11.0%
15. 自分や夫婦の時間がとれなくなる	32	15.3%
16. 配偶者・パートナーが子どもを欲しがらない	11	5.3%
17. 特にない	17	8.1%
18. わからない	10	4.8%
無回答	18	8.6%
合計	674	

問 32 出産しやすい環境づくりについて、どのような支援があればよいと思いますか。

（1つに○）

「妊娠・出産時の経済的負担の軽減」が 46.1%と最も多く、次いで「産休・育休制度の充実」が 35.1%となっています。

	人数	割合
1. 産休・育休制度の充実	198	35.1%
2. 妊娠・出産に関する相談・地域のサポート体制の充実	68	12.1%
3. 妊娠・出産時の経済的負担の軽減	260	46.1%
4. 支援は必要ない	11	2.0%
5. その他	18	3.2%
無回答	9	1.6%
合計	564	100.0%

問 33 子育てしやすい環境づくりについて、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

「子育てがしやすい税制や社会保障」が 62.8%と最も多く、次いで「子どもの人数に応じた経済的な支援」「保育所などの預け先の施設の充実」が 59.6%となっています。

	人数	割合
1. 子育てを地域で見守るコミュニティの充実	135	23.9%
2. 子育てに関する相談、サポート体制の充実	159	28.2%
3. 育児に関する家族教室などの開催	39	6.9%
4. 育児休暇制度の充実(期間の延長など)	181	32.1%
5. 男性の育児休暇取得の推奨	187	33.2%
6. 子どもの人数に応じた経済的な支援	336	59.6%
7. 保育所などの預け先の施設の充実	338	59.9%
8. 企業による育休明けの働き方に関する支援	180	31.9%
9. 子育てがしやすい税制や社会保障	354	62.8%
10. 育児や住宅に対する資金貸与や経済的支援	230	40.8%
11. 企業による労働時間短縮や休暇取得など、育児時間確保のため	247	43.8%
12. 支援は必要ない	3	0.5%
13. その他	23	4.1%
無回答	16	2.8%
合計	2428	

問 34 【女性の方へ】

出産後の就業について、ご自身の経験や希望に近いものをお選び下さい。

(あてはまるもの全てに○)

※出産された女性はご自身の経験を、出産されていない女性は今後の希望をお答え下さい。

「出産後に元の職場に復帰した(復帰したい)」が 41.1%と最も多く、次いで「出産後しばらくは就業しなかった(就業しない)」が 24.2%となっています。

	人数	割合
1. 出産後に元の職場に復帰した(復帰したい)	141	41.1%
2. 出産後すぐに新たな職(正社員)に就いた(就きたい)	19	5.5%
3. 出産後すぐに新たな職(パート・アルバイト)に就いた(就きたい)	33	9.6%
4. 出産後しばらくは就業しなかった(就業しない)	83	24.2%
5. 就業していない(就業しない)	30	8.7%
6. その他	12	3.5%
無回答	61	17.8%
合計	379	

## Ⅱ 「転入に関するアンケート調査」

### 1 調査の目的

一関市への転入者に対してアンケート調査を実施し、転入理由や経緯などについて把握し、今後の施策等の検討に活用する。

### 2 調査概要

#### (1) 調査対象

平成26年1～12月の転入者から16歳以上の市民1,000名を無作為抽出した。

#### (2) 調査内容

(1)～(8)	代表者(世帯主)について
(10)～(18)	一関市に転入された経緯

#### (3) 調査方法

調査票を郵送により配布、回収する。

#### (4) 調査実施期間

平成27年7月17日(金)～平成27年7月31日(金)

### 3 回収結果

	計
配布数	790票
回収数	210票
回収率	26.6%

#### 4 調査結果

##### (1) 転入された方のうち代表者の性別

「男性」が63.8%と半数以上を占めており、「女性」が35.2%となっています。

	人数	割合
1. 男性	134	63.8%
2. 女性	74	35.2%
無回答	2	1.0%
合計	210	100.0%

##### (2) 転入された方のうち代表者の年齢（1つに○印）

最も多いのは「30歳代」で28.6%を占めており、次いで「20歳代」が22.9%となっています。

	人数	割合
1. 20歳未満	5	2.4%
2. 20歳代	48	22.9%
3. 30歳代	60	28.6%
4. 40歳代	41	19.5%
5. 50歳代	18	8.6%
6. 60歳代	26	12.4%
7. 70歳代	10	4.8%
無回答	2	1.0%
合計	210	100.0%

##### (3) 転入された方のうち代表者の職業（1つに○印）

「正社員・正規の職員」が最も多く50.0%と全体の半数を占めており、次いで「無職」が14.8%となっています。

	人数	割合
1. 自営業主・家族従事者	13	6.2%
2. 会社役員・団体役員	8	3.8%
3. 正社員・正規の職員	105	50.0%
4. 派遣・嘱託・契約社員	14	6.7%
5. パート・アルバイト	17	8.1%
6. 専業主婦・専業主夫	6	2.9%
7. 学生	1	0.5%
8. 無職	31	14.8%
9. その他	13	6.2%
無回答	2	1.0%
合計	210	100.0%

(4) 転入された家族の構成 (1つに○印)

「単身世帯」が最も多く 32.9%を占めており、次いで「主婦と子ども」が 28.1%となっています。

	人数	割合
1. 単身世帯	69	32.9%
2. 夫婦のみ	40	19.0%
3. 主婦と子ども	59	28.1%
4. 三世代(親・子・孫)	15	7.1%
5. ひとり親と子ども	15	7.1%
6. その他	11	5.2%
無回答	1	0.5%
合計	210	100.0%

(5) 転入された人数 (世帯人数) をご記入ください。

世帯人数は「1人」が最も多く 44.8%を占めており、次いで「2人」が 18.6%となっています。

	人数	割合
1人	94	44.8%
2人	39	18.6%
3人	31	14.8%
4人	22	10.5%
5人	9	4.3%
6人以上	5	2.4%
無回答	10	4.8%
合計	210	100.0%

(5) 2 男女の人数

男性の人数は「1人」が最も多く 44.8%を占めており、次いで「2人」が 18.6%となっています。女性の人数は「1人」が最も多く 49.0%を占めており、次いで「2人」が 16.2%となっています。

男性

	人数	割合
1人	94	44.8%
2人	39	18.6%
3人	31	14.8%
4人	22	10.5%
5人	9	4.3%
6人以上	5	2.4%
無回答	58	27.6%
合計	258	

女性

	人数	割合
1人	103	49.0%
2人	34	16.2%
3人	18	8.6%
4人	2	1.0%
5人	1	0.5%
6人以上	0	0.0%
無回答	46	21.9%
合計	204	

(6) 過去に一関市に住んだことがあるか、お答えください。

一関市に住んだことが「ある」人は、53.3%、住んだことが「ない」人は45.7%となっています。

	人数	割合
1. ある	112	53.3%
2. ない	96	45.7%
無回答	2	1.0%
合計	210	100.0%

(7) 現在のお住まいの「地域」についてお答えください。(1つに○印)

住まい地区としては「一関地域」が62.9%と半数以上を占めており、次いで「千厩地域」が11.4%となっています。

	人数	割合
1. 一関地域	132	62.9%
2. 花泉地域	15	7.1%
3. 大東地域	12	5.7%
4. 千厩地域	24	11.4%
5. 東山地域	3	1.4%
6. 室根地域	9	4.3%
7. 川崎地域	1	0.5%
8. 藤沢地域	13	6.2%
無回答	1	0.5%
合計	210	100.0%

(7) 2 現在のお住まいの「居住形態」についてお答えください。(1つに○印)

最も多いのは「持ち家(一戸建て)」で51.4%と半数以上を占めており、次いで「民間賃貸住宅(アパート・賃貸マンション)」が25.2%となっています。

	人数	割合
1. 持ち家(一戸建て)	108	51.4%
2. 持ち家(分譲マンション)	0	0.0%
3. 借家(一戸建て)	20	9.5%
4. 民間賃貸住宅(アパート・賃貸マンション)	53	25.2%
5. 公的賃貸住宅(県営住宅・市営住宅等)	6	2.9%
6. 会社の寮や社宅	14	6.7%
7. その他	9	4.3%
無回答	0	0.0%
合計	210	100.0%

(8) 転入前の「ご住所」についてお答えください。

「県外」が63.3%と半数以上を占めており、次いで「県内」が35.7%となっています。

	人数	割合
1. 県内	75	35.7%
2. 県外	133	63.3%
3. 国外	2	1.0%
無回答	0	0.0%
合計	210	100.0%

(8) 2 転入前の「居住形態」についてお答えください。

最も多いのは「民間賃貸住宅(アパート・賃貸マンション)」で49.5%となっており、次いで「持ち家(一戸建て)」が21.0%となっています。

	人数	割合
1. 持ち家(一戸建て)	44	21.0%
2. 持ち家(分譲マンション)	5	2.4%
3. 借家(一戸建て)	10	4.8%
4. 民間賃貸住宅(アパート・賃貸マンション)	104	49.5%
5. 公的賃貸住宅(県営住宅・市営住宅等)	7	3.3%
6. 会社の寮や社宅	33	15.7%
7. その他	6	2.9%
無回答	1	0.5%
合計	210	100.0%

(9) 一関市に転入されたきっかけは何ですか。(あてはまるもの3つまで)

「あなた(夫婦)の仕事の都合」が最も多く56.7%と半数以上を占めており、次いで「親や子ども、その他の親族との同居・近居・別居のため」が17.6%となっています。

	人数	割合
1. あなた(夫婦)の仕事の都合	119	56.7%
2. 親(子)の仕事の都合	0	0.0%
3. あなたの学校の都合	1	0.5%
4. 子どもの学校の都合	9	4.3%
5. 住宅の都合	12	5.7%
6. 結婚のため	30	14.3%
7. 出産や療養等に伴う一時的な転入	3	1.4%
8. 親などの介護のため	15	7.1%
9. 親や子ども、その他の親族との同居・近居・別居のため	37	17.6%
10. その他	25	11.9%
無回答	5	2.4%
合計	256	

(9) 2 【「1. あなた(夫婦)の仕事の都合」を回答した方へ】

一関市に転入されたきっかけは何ですか。

最も多いのは「転勤」で48.7%となっており、次いで「転職」が17.6%となっています。

	人数	割合
就職	16	13.4%
転職	21	17.6%
転勤	58	48.7%
退職	18	15.1%
創業	1	0.8%
その他	4	3.4%
無回答	2	1.7%
合計	120	



(9) 5【「4. 子どもの学校の都合」を回答した方へ】

一関市に転入されたきっかけは何ですか。

「通学」が最も多く 44.4%を占めており、また「その他」が 33.3%、「進学」が 22.2%の順に多くなっています。

	人数	割合
進学	2	22.2%
通学	4	44.4%
その他	3	33.3%
無回答	0	0.0%
合計	9	100.0%

(9) 6【「5. 住宅の都合」を回答した方へ】

一関市に転入されたきっかけは何ですか。

「広さ」「家賃」「その他」が 33.3%となっており、「設備」が 8.3%となっています。

	人数	割合
広さ	4	33.3%
設備	1	8.3%
家賃	4	33.3%
その他	4	33.3%
無回答	2	16.7%
合計	15	

(10) 現在の場所に決められた理由は何ですか。(あてはまるもの5つまで)

「生まれ育ったまちだから」が 26.2%、「職場が近い」が 23.8%、「親・子ども・知人が近くにいる」が 23.3%となっています。

	人数	割合
1. 子育て支援が充実	3	1.4%
2. 教育や文化的な環境がよい	5	2.4%
3. 医療や福祉が充実	1	0.5%
4. 自然環境や景色がよい	20	9.5%
5. 交通の便がよい	30	14.3%
6. 買い物が便利	34	16.2%
7. 治安がよい	6	2.9%
8. 住宅価格や家賃が手頃	18	8.6%
9. 職場が近い	50	23.8%
10. 保育園や学校が近い	19	9.0%
11. 親・子ども・知人が近くにいる	49	23.3%
12. 金融機関が近い	2	1.0%
13. 娯楽施設が近くにある	0	0.0%
14. 飲食店が近くにある	2	1.0%
15. 生まれ育ったまちだから	55	26.2%
16. 物価が安い	1	0.5%
17. 病院等が近くにある	10	4.8%
18. 公園が近くにある	1	0.5%
19. 近所の助け合いがある	5	2.4%
20. その他	57	27.1%
無回答	10	4.8%
合計	378	

(11) 現在の場所以外にお住まいを探しましたか。(1つに○印)

「入居先が決まっていた」が 47.6%と最も多く、次いで「一関市内に絞って」が 33.3%となっています。

	人数	割合
1. 一関市内に絞って	70	33.3%
2. 県内	11	5.2%
3. 入居先が決まっていた	100	47.6%
4. その他	22	10.5%
無回答	7	3.3%
合計	210	100.0%

(12) 転入前、一関市の生活環境（市内の交通の便や買い物施設、医療施設、文化施設や公園など）について、十分な情報を得られていましたか。（1つに○印）

「ある程度得られていた」が 40.5%を占めており、その他「十分得られていた」が 23.8%、「あまり得られていなかった」が 21.4%となっています。

	人数	割合
1. 十分得られていた	50	23.8%
2. ある程度得られていた	85	40.5%
3. あまり得られていなかった	45	21.4%
4. 全く得られていなかった	26	12.4%
無回答	4	1.9%
合計	210	100.0%

(13) 転入前、(12) でお聞きした一関市の生活環境に関する情報は、主にどのような手段で得ていましたか。（1つに○印）

「知人・親類との会話」が最も多く 43.8%で、次いで「一関市役所発信のその他」が 20.5%となっています。

	人数	割合
1. 一関市役所発信のホームページ	42	20.0%
2. 一関市役所発信のフェイスブックなどSNS	1	0.5%
3. 一関市役所発信の広報紙やチラシ	26	12.4%
4. 一関市役所発信のその他	43	20.5%
5. 他のホームページ	27	12.9%
6. 他のフェイスブックなどSNS	4	1.9%
7. マスコミ報道	7	3.3%
8. タウン誌・ミニコミ誌	6	2.9%
9. 知人・親類との会話	92	43.8%
10. その他	23	11.0%
無回答	23	11.0%
合計	294	

(14) 一関市にお住まいになって、満足されていますか。

(あてはまる番号すべてに○印)

「どちらかといえば満足」が 51.4%と半数以上になっており、次いで「どちらかといえば不満」が 21.0%となっています。

	人数	割合
1. 満足	35	16.7%
2. どちらかといえば満足	108	51.4%
3. どちらかといえば不満	44	21.0%
4. 不満	16	7.6%
無回答	7	3.3%
合計	210	100.0%

(15) 一関市にお住まいになって、不満な点についてお聞かせください。

(あてはまる番号すべてに○印)

「買い物や外食が不便」が最も多く 41.0%となっており、次いで「交通の便が良くない」が 31.4%となっています。

	人数	割合
1. 縁が少ない	9	4.3%
2. 医療・福祉サービスが充実していない	49	23.3%
3. 子育てがしにくい	20	9.5%
4. 買い物や外食が不便	86	41.0%
5. 道路や下水道等の整備が行き届いていない	44	21.0%
6. 交通の便が良くない	66	31.4%
7. 公共施設が充実していない	38	18.1%
8. 子どもの教育環境が良くない	16	7.6%
9. 災害が多い	5	2.4%
10. 犯罪が多い	2	1.0%
11. 地域内での人間関係が良くない	14	6.7%
12. 住宅の購入・賃貸にかかる費用が高い	26	12.4%
13. 騒々しく落ち着きがない	5	2.4%
14. その他	35	16.7%
無回答	32	15.2%
合計	447	

(16) 今後も一関市に住み続けたいと思われませんか。(1つに○印)

「住み続けたい」が最も多く 43.3%を占めており、次いで「一関市が住みやすい環境になれば住み続けたい」が 38.1%となっています。

	人数	割合
1. 住み続けたい	91	43.3%
2. 住み続けたくない	29	13.8%
3. 一関市が住みやすい環境になれば住み続けたい	80	38.1%
無回答	10	4.8%
合計	210	100.0%

(17) 一関市への転入を増やすために、市が実施した方が良い効果的な支援はどれだと思えますか。(あてはまるもの3つまで)

「子どもの医療費補助」が多く 28.6%となっており、次いで「保育費支援」が 25.7%となっています。

	人数	割合
1. 家を借りる際に一定期間の家賃補助	35	16.7%
2. 高齢者や障がい者の方が入居しやすい住居や施設の普及	41	19.5%
3. 空き家を購入する際の補助	30	14.3%
4. 住宅をリフォームする際の補助	25	11.9%
5. 子どもの医療費補助	60	28.6%
6. 親族の近くに住むことや同居に対する支援	34	16.2%
7. 出産祝い金	33	15.7%
8. 起業支援・助成	25	11.9%
9. 保育費支援	54	25.7%
10. 学校授業料支援	26	12.4%
11. 子育て世代向け公的賃貸住宅の供給	37	17.6%
12. 新規就農者への助成金	24	11.4%
13. 転入奨励金	49	23.3%
14. その他	26	12.4%
無回答	14	6.7%
合計	513	

### Ⅲ 「転出に関するアンケート調査」

#### 1 調査の目的

一関市からの転出者に対してアンケート調査を実施し、転出理由や経緯などについて把握し、今後の施策等の検討に活用する。

#### 2 調査概要

##### (1) 調査対象

平成 27 年 1 月 1 日以降の転出者から 16 歳以上の元市民 300 名を無作為抽出した。

##### (2) 調査内容

(1) ～ (7)	代表者（世帯主）について
(8) ～ (14)	一関市から転出された経緯

##### (3) 調査方法

調査票を郵送により配布、回収する。

##### (4) 調査実施期間

平成 27 年 7 月 17 日（金）～平成 27 年 7 月 31 日（金）

#### 3 回収結果

	計
配布数	264 票
回収数	75 票
回収率	28.4%

#### 4 調査結果

##### (1) 転出された方のうち代表者（世帯主）の性別

「男性」が61.3%、「女性」が38.7%となっています。

	人数	割合
1. 男性	46	61.3%
2. 女性	29	38.7%
無回答	0	0.0%
合計	75	100.0%

##### (2) 転出された方のうち代表者（世帯主）の年齢

「20歳代」が26.7%、次いで「30歳代」が21.3%となっています。

	人数	割合
1. 20歳未満	11	14.7%
2. 20歳代	20	26.7%
3. 30歳代	16	21.3%
4. 40歳代	14	18.7%
5. 50歳代	10	13.3%
6. 60歳代	2	2.7%
7. 70歳代	1	1.3%
無回答	1	1.3%
合計	75	100.0%

##### (3) 転出された方のうち代表者（世帯主）の就労の状況（1つに○印）

「正社員・正規の職員」が72.0%と最も多く、次いで「学生」が12.0%となっています。

	人数	割合
1. 自営業主・家族従事者	1	1.3%
2. 会社役員・団体役員	0	0.0%
3. 正社員・正規の職員	54	72.0%
4. 派遣・嘱託・契約社員	2	2.7%
5. パート・アルバイト	2	2.7%
6. 専業主婦・専業主夫	2	2.7%
7. 学生	9	12.0%
8. 無職	3	4.0%
9. その他	2	2.7%
無回答	0	0.0%
合計	75	100.0%

(4) 転出された家族の構成

「単身世帯」が 61.3%と半数以上を占めており、次いで「主婦と子ども」が 16.0%となっています。

	人数	割合
1. 単身世帯	46	61.3%
2. 夫婦のみ	9	12.0%
3. 主婦と子ども	12	16.0%
4. 三世代(親・子・孫)	2	2.7%
5. ひとり親と子ども	3	4.0%
6. その他	2	2.7%
無回答	1	1.3%
合計	75	100.0%

(5) 一関市におおむね何年、お住まいになりましたか。

「1年～5年未満」が 29.3%と全体の 3割ほどを占めており、次いで「10年～20年未満」が 25.3%となっています。

	人数	割合
1年未満	4	5.3%
1年～5年未満	22	29.3%
5年～10年未満	5	6.7%
10年～20年未満	19	25.3%
20年～30年未満	14	18.7%
30年以上	9	12.0%
無回答	2	2.7%
合計	75	94.7%

(6) 一関市で住まれていた「地域」についてお答えください。

「一関地域」が最も多く 46.7%となっており、次いで「千厩地域」が 25.3%となっています。

	人数	割合
1. 一関地域	35	46.7%
2. 花泉地域	0	0.0%
3. 大東地域	4	5.3%
4. 千厩地域	19	25.3%
5. 東山地域	2	2.7%
6. 室根地域	12	16.0%
7. 川崎地域	2	2.7%
8. 藤沢地域	0	0.0%
無回答	1	1.3%
合計	75	100.0%



(6) 2 一関市で住まれていた「居住形態」についてお答えください。

「持ち家（一戸建て）」が 46.7%となっており、次いで「民間賃貸住宅（アパート・賃貸マンション）」が 25.3%となっています。

	人数	割合
1. 持ち家(一戸建て)	35	46.7%
2. 持ち家(分譲マンション)	0	0.0%
3. 借家(一戸建て)	4	5.3%
4. 民間賃貸住宅(アパート・賃貸マンション)	19	25.3%
5. 公的賃貸住宅(県営住宅・市営住宅等)	2	2.7%
6. 会社の寮や社宅	12	16.0%
7. その他	2	2.7%
無回答	1	1.3%
合計	75	100.0%

(7) 転出先の都道府県/市町村をお書きください

転居先としては「県外」が最も多く 98.0%を占めています。

	人数	割合
1. 県内	1	1.3%
2. 県外	74	98.7%
3. 国外	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	75	100.0%

(8) 一関市から転出されたきっかけは何ですか。(あてはまるもの3つまで)

「あなた（夫婦）の仕事の都合」が最も多く 68.0%を占めており、次いで「あなたの学校の都合」が 12.0%となっています。

	人数	割合
1. あなた(夫婦)の仕事の都合	51	68.0%
2. 親(子)の仕事の都合	2	2.7%
3. あなたの学校の都合	9	12.0%
4. 子どもの学校の都合	1	1.3%
5. 住宅の都合	2	2.7%
6. 結婚のため	7	9.3%
7. 出産や療養等に伴う一時的な転入	0	0.0%
8. 親などの介護のため	1	1.3%
9. 親や子ども、その他の親族との同居・近居・別居のため	2	2.7%
10. その他	3	4.0%
無回答	1	1.3%
合計	79	

(8) 2 【「1. あなた（夫婦）の仕事の都合」を回答した方】

転出のきっかけは、「転勤」が最も多く 62.7%を占めており、次いで「就職」が 27.5%となっています。

	人数	割合
就職	14	27.5%
転職	3	5.9%
転勤	32	62.7%
退職	1	2.0%
創業	0	0.0%
その他	1	2.0%
無回答	0	0.0%
合計	51	100.0%

(8) 4 【「3. あなたの学校の都合」を回答した方】

「進学」を選んでいます。

	人数	割合
進学	9	100.0%
通学	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	9	100.0%

(9) 現在のお住まいを決めた際に重視した点は何ですか。

「職場が近い」が最も多く 46.7%と半数近くを占めており、次いで「買い物が便利」が 30.7%となっています。

その他としては、「交通の便が良い」が 26.7%、「その他」が 25.3%、「住宅価格や家賃が手頃」が 16.0%の順に多くなっています。

	人数	割合
1. 子育て支援が充実	1	1.3%
2. 教育や文化的な環境がよい	4	5.3%
3. 医療や福祉が充実	3	4.0%
4. 自然環境や景色がよい	4	5.3%
5. 交通の便がよい	20	26.7%
6. 買い物が便利	23	30.7%
7. 治安がよい	1	1.3%
8. 住宅価格や家賃が手頃	12	16.0%
9. 職場が近い	35	46.7%
10. 保育園や学校が近い	5	6.7%
11. 親・子ども・知人が近くにいる	7	9.3%
12. 金融機関が近い	2	2.7%
13. 娯楽施設が近くにある	1	1.3%
14. 飲食店が近くにある	0	0.0%
15. 生まれ育ったまちだから	2	2.7%
16. 物価が安い	1	1.3%
17. 病院等が近くにある	1	1.3%
18. 公園が近くにある	2	2.7%
19. 近所の助け合いがある	1	1.3%
20. その他	19	25.3%
無回答	1	1.3%
合計	145	

(10) 一関市に住んでいた時に、住みやすいと思った点はどれですか。

(あてはまるもの3つまで)

住みやすい点としては、「職場が近い」が最も多く 32.0%となっており、次いで「治安が良い」が 30.7%となっています。

	人数	割合
1. 買い物が便利	15	20.0%
2. 交通が便利	10	13.3%
3. 物価が安い	6	8.0%
4. 近所の助け合い	18	24.0%
5. 職場が近い	24	32.0%
6. 住宅価格や家賃が安い	2	2.7%
7. 病院等が近くにある	11	14.7%
8. 子育て施設や体制が充実している	1	1.3%
9. 保育園や幼稚園、学校が近い	7	9.3%
10. 高齢者や障害者のための施設等が充実	1	1.3%
11. 公園が近い	4	5.3%
12. 街並みや街の雰囲気が良い	20	26.7%
13. 治安が良い	23	30.7%
14. 金融機関が近い	3	4.0%
15. 娯楽施設が近い	0	0.0%
16. 飲食店が近い	4	5.3%
17. 図書館、スポーツ施設などの公共施設が近い	11	14.7%
18. その他	11	14.7%
無回答	3	4.0%
合計	174	

(11) 一関市に住んでいた時に、住みにくいと思った点はどれですか。

(あてはまるもの3つまで)

住みにくい点としては、「交通が不便」が最も多く 42.7%となっており、次いで「買い物が不便」が 30.7%となっています。

	人数	割合
1. 買い物が不便	23	30.7%
2. 交通が不便	32	42.7%
3. 物価が高い	7	9.3%
4. 近所の助け合いがない	1	1.3%
5. 職場が遠い	4	5.3%
6. 近所づきあいが面倒	2	2.7%
7. 病院等が近くにない	8	10.7%
8. 住宅価格や家賃が高い	4	5.3%
9. 保育園、学校が近くにない	3	4.0%
10. 子育て施設や体制が充実していない	3	4.0%
11. 公園が近くにない	8	10.7%
12. 街並みや街の雰囲気が良くない	2	2.7%
13. 治安が良くない	1	1.3%
14. 金融機関が近くにない	3	4.0%
15. 娯楽施設が近くにない	20	26.7%
16. 飲食店が近くにない	13	17.3%
17. 図書館、スポーツ施設などの公共施設が近くにない	2	2.7%
18. 高齢者や障害者のための施設等が充実していない	3	4.0%
19. その他	9	12.0%
無回答	9	12.0%
合計	157	

(12) 一関市にお住まいになって、満足されましたか。

満足度は「満足」と「どちらかといえば満足」がそれぞれ 38.7%を占めており、次いで「どちらかといえば不満」が 13.3%となっています。

	人数	割合
1. 満足	29	38.7%
2. どちらかといえば満足	29	38.7%
3. どちらかといえば不満	10	13.3%
4. 不満	5	6.7%
無回答	2	2.7%
合計	75	100.0%

(13) 一関市への転入を増やすために、市が実施した方が良い効果的な支援はどれだと思いますか。(あてはまるもの3つまで)

効果的な支援としては、「転入奨励金」が 33.3%を占めており、次いで「子どもの医療費補助」が 24.0%となっています。

	人数	割合
1. 家を借りる際に一定期間の家賃補助	14	18.7%
2. 高齢者や障がい者の方が入居しやすい住居や施設の普及	15	20.0%
3. 空き家を購入する際の補助	14	18.7%
4. 住宅をリフォームする際の補助	7	9.3%
5. 子どもの医療費補助	18	24.0%
6. 親族の近くに住むことや同居に対する支援	6	8.0%
7. 出産祝い金	7	9.3%
8. 起業支援・助成	14	18.7%
9. 保育費支援	14	18.7%
10. 学校授業料支援	10	13.3%
11. 子育て世代向け公的賃貸住宅の供給	10	13.3%
12. 新規就農者への助成金	9	12.0%
13. 転入奨励金	25	33.3%
14. その他	12	16.0%
無回答	4	5.3%
合計	179	

(14) 機会があれば、一関市にもう一度、住みたいと思われませんか。

「住みたい」が 78.7%を占めており、「住みたくない」が 16.0%となっています。

	人数	割合
1. 住みたい	59	78.7%
2. 住みたくない	12	16.0%
無回答	4	5.3%
合計	75	100.0%